



学校だより

錦城の詩

平成25年(2013年)

1月31日(第17号)

明石市立錦城中学校

錦城のとある1日

校長 荒井 拓

若者の顔を見るのが好きである。素敵な笑顔も良いけれど、苦しそうな顔の方がなお良い。それは、困難に負けないという意味や気力に溢れているからだ。箱根駅伝、花園ラグビー等々どれをとっても見入ってしまう。我錦中生だって負けてませんぞ。毎朝、職員朝会の後、正門で先生方と一緒に子どもたちを迎える。寒い寒い、息がまっ白になる8時過ぎ、続々と登校してくる。「おはようございます」「おはよう」の言葉をかわす。大きな声、小さな声、無言の会釈、微笑み、照れ笑い、それぞれの挨拶が返ってくる。「ネクタイは?」「名札は?」「チャイムが鳴ってるぞ! 急げ!」の指導の声も混じりながら……。

8時20分より「朝読書」。10分間ではあるけれど、集中して取り組んでおり、1日の始まりに相応しい静かで贅沢な10分間。担任とともに各人が活字を追う。引き続き開かれる朝のSHRが自然と落ち着いたものになるのは約束されているようなもの。登校してから、1時間目の授業が始まるまでの25分間。見事な静寂。(このために、職員の出勤時刻は他校より少し早いものとなっています)

さて、午前中の授業4時間が始まる。この時期はさすがに寒いので、ドアを閉めての授業であるが、時間のある時に廊下をブラブラ。教室のドアの窓から覗きこむと、いつ、どの授業でも子どもたちは真剣に先生の方を頭をあげて見ている、観ている。時には、班単位での学習活動で賑やかなことも当然あるが、物音ひとつ聞こえない時の方が多い。3年生教室のすぐ隣にある校長室には結構、お客様が来られるが、「今日は、生徒はいないのですか? 静かですなぁ」と尋ねられることは、そう珍しいことではない。中学生の問題を解いている横顔は、思慮深さを感じさせる。中学生の手を挙げて発表する横顔は、強い意思を感じさせる。中学生の友の意見を聴く横顔は、高め合う向上心を感じさせる。中学生の知的な横顔は、頼もしい未来を連想させる。

さて、グラウンドから明石公園へ地続きでいける最高の環境にも感謝したい。ある日の体育の時間、剛の池外周を持久走。どの学年も見学者はほとんど無く、一生懸命走る走る走る。約1.2キロメートルを自己ベスト目指して頑張る。持久走は残酷なもので、得意不得意が距離の差として歴然と目に写る。緑の相談所の上り坂で子どもを待っていると、やって来るやって来る。はあはあ、息を切らせて苦しうに。その時の中学生の顔が実に良い。辛そうで、悲しそ

うで、自信なさそうで。それでいて、目は輝き、何の見栄もない純粋な表情で、逆に自信ありそうで…。どこか、神々しさもあつたりして。中学生の気力の横顔も、頼もしい未来を感じさせる。

業間の休み時間。授業中の静けさとは、180度打って変って。賑やか賑やか、五月蠅い五月蠅い。元気いっぱい。大声で話しながら校長室前を通り過ぎていく。事務仕事をしながら聞くととはなしに聞いてしまうが、「プツ」と吹き出すこともしばしば。中学生の会話は面白い。職員室にいても面白い。「失礼します」「〇年〇組の鍵を取りに来ました」「〇〇先生、いますか?」「おられますかと言ってほしいところ」「◇◇先生お願いします」と、礼儀正しく入ってくる。が、中には、緊張のあまり「△△先生おらっしゃいますか?」とか、「明日の授業の用意教えてください」に対して先生から「今日の授業が終わってから聞きに来なさい」と、つままれてスゴスゴ退散。あるいは入室するなり「えーと、えーと……失礼します」と去っていく。などなど。

昼食時間。必ず担任も教室に行き、子どもたちと共に食事。班の形で、男女仲良く、ご家庭の心づくしの弁当を広げる。(先生方は、弁当屋弁当。自作弁当。パン。中にはご家族弁当などさまざま)実に楽しそうに、会話がはずんで消化によさそうであります。(私が学級担任の時は、「日本の食事文化は黙って、静かに食べるもんや」などと理不尽な事を云い、全員前を向いて授業中のようにシーンとして食事させてました。可哀そうなことをしました。卒業生のみなさん、ごめんなさい)

男子は、グラウンドで寒い中走り回って遊ぶ。図書館にも本に親しむ生徒がチラホラ。楽しい昼休みが終わると、午後の授業で再びの静寂。

帰りのSHRが終わると、校舎が一斉にざわめき、全員清掃活動が始まる。職員室に「〇〇先生、掃除お願いします」とお誘い。廊下を素手で雑巾掛など、それぞれの分担を手際よく作業。

そして、いよいよ放課後のクラブ活動。このときの中学生の顔が、また良い。一生懸命打ち込んでいる姿はさすがに、躍動感に溢れている。特に、顧問から指導を受けている時の真っすぐな姿勢と視線。「はいっ!」と答える凛々しさ。このときの中学生の横顔もやっぱり頼もしい未来を連想させてくれる。

教頭先生の「完全下校の時間が近づいています。気を付けて帰宅しましょう」の放送に追われるように「さようなら」と校門から帰宅していく後姿。これも、ちょっとイイ。

主人公が去った学校は、突然、表情が無くなる。職員室だけが異空間のように明るくポツンと浮き上がっているが、他は機能停止。特にこの季節は、寒々と真っ暗。まるで何かが潜んでいるようで不気味さも漂う。

校舎も、早く明日の朝になって、子どもたちが元気で登校してくることを待っているようだ。

時節柄、風邪などひかれませんように。